

大学生の Twitter 使用と友人関係満足度の関係 —複数アカウントの使用に着目して—

添田 拓海

10代・20代の若年層はLINEやTwitterを多用している(総務省, 2020)。また, SNS使用はコミュニティによって自分を使い分けること(以下自己多元化)を促進するとされている(浅野, 2014)。しかし, 自己多元性傾向の強い人は現実自己とともに, 自分にとって望ましい印象を与えようとする意図的な振る舞い(以下自己呈示)をすることも考えられる。これはTwitterのような見知らぬ人ともつながり, 匿名性が比較的高いSNSの場合ではより顕著と考えられる。また, Twitterはアカウントによってコミュニティを分けることができる(北村ほか, 2016)。Twitter使用においてメインアカウントとメイン以外のアカウント(以下, サブアカウント)ではつながる相手が違うため, 理想自己を演じる可能性がさらに高まると考えられる。サブアカウントの使用による過剰な自己呈示的な投稿や一貫性のない投稿をすることで, 相手との親密さによっては悪意的に解釈され, 友人関係満足度が低下するおそれがあるだろう。さらに, 一般他者への信頼(以降, 一般的信頼性)の低い人は特定の他者に対する個別的信頼性を高めると同時に, それ以外の相手に対する信頼を低める傾向があることから(山岸ほか, 1996), 一般的信頼性の低い人が特定の他者のみを信用するため, 親しい他者をフォローし, いずれのアカウントでも非公開設定にすると考えられる。そこで本研究では, アカウントごとに個人特性・Twitter使用と友人関係満足度との関係が異なるのかを明らかにすることを目的とする。

上記の目的を達成するため, 大学生を対象に2020年8月下旬~10下旬の期間で調査を実施した。調査票では回答者の個人情報とともに, 自己多元性や, 一般的信頼性を含め, アカウントごとのTwitter使用, サブアカウントでの自己高揚的提示の投稿を尋ねた。

154名を対象に分析した結果, 以下のことを明らかにした。①いずれのアカウントにおいても自尊心と一般的信頼性が友人関係満足度の向上に正の効果があり, メインアカウントでは自己多元性による負の影響が見られた。②「日常的によく会う人」をよくフォローすることが, メインアカウントでは負の影響, 1つ目のサブアカウントでは正の影響が見られた。これらのことから, メインアカウントでは現実での知り合いと多くつながっており, 相手は自分のことをよく知っているため, 一貫した自己を示さないと現実の対人関係にも悪影響を及ぼすことが示唆された。一方, 1つ目のサブアカウントはメインアカウントとは異なる目的で使用されているため, 親密な人を多くフォローすることで特定の親密な人に自己開示したりするなどのことができたため, 友人関係満足度が高められたと考えられる。

上記の知見より, Twitter使用においてメインアカウントとサブアカウントは異なる性質を持つだけでなく, フォロワー者との関係によって友人関係満足度への影響が異なることが示された。今後Twitter使用と対人関係に関する検討をするには重要な示唆になるだろう。

(指導教員 叶 少瑜)